



I コマンド

この章では、I で始まる Cisco NX-OS Routing Information Protocol (RIP) コマンドについて説明します。

ip rip authentication key-chain

Routing Information Protocol (RIP) Version 2 パケットの認証をイネーブルにし、インターフェイス上で使用できるキーセットを指定するには、**ip rip authentication key-chain** コマンドを使用します。認証を禁止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip authentication key-chain *name-of-chain*

no ip rip authentication key-chain [*name-of-chain*]

構文の説明

name-of-chain 有効なキーのグループ。

コマンド デフォルト

RIP パケットには認証は適用されません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、キーチェーン ツリーに属しているキーの受け入れと送信をインターフェイスに設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip authentication key-chain trees
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
key-chain	認証方式で使用可能なキー セットを作成します。
show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。

ip rip authentication mode

Routing Information Protocol (RIP) Version 2 パケットで使用される認証タイプを指定するには、**ip rip authentication mode** コマンドを使用します。クリア テキスト認証に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip authentication mode {text | md5}

no ip rip authentication mode

構文の説明

text	クリア テキスト認証を指定します。
md5	Message Digest 5 (MD5) 認証を指定します。

コマンドデフォルト

キー チェーンを設定した場合、RIP パケットにクリア テキスト認証が適用されます。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、MD5 認証を使用するようにインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip authentication mode md5
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
ip rip authentication key-chain	RIP Version 2 パケットの認証をイネーブルにして、インターフェイスに使用可能なキー セットを指定します。
key chain	ルーティング プロトコルの認証をイネーブルにします。
show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。

ip rip metric-offset

インターフェイスの着信 IP Routing Information Protocol (RIP) ルート メトリックに追加の値を設定するには、**ip rip metric-offset** コマンドを使用します。メトリックをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip metric-offset *value*

no ip rip metric-offset

構文の説明

value インターフェイスの着信ルート メトリックに追加する値。指定できる範囲は 1 ～ 15 です。デフォルトは 1 です。

コマンド デフォルト

value : 1

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ip route metric-offset コマンドは、Cisco NX-OS が使用するルートに影響を与えます。このコマンドを使用すると、インターフェイス上の全着信ルートのルート メトリックに固定オフセットを追加できます。あるインターフェイスの **metric-offset** を 5 に設定し、着信ルート メトリックが 5 の場合、Cisco NX-OS はそのルート テーブルにメトリック 10 のルートを追加します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 上のすべての着信 RIP ルートに 10 のメトリック オフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip metric-offset 10
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip rip offset-list	着信 RIP ルート メトリックにオフセット値を追加します。

ip rip offset-list

Routing Information Protocol (RIP) を通して学習されたルートの着信および送信メトリックにオフセットを追加するには、**ip rip offset-list** コマンドを使用します。オフセット リストを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip offset-list value

no ip rip offset-list

構文の説明

<i>value</i>	インターフェイスの着信ルートメトリックに追加する値。指定できる範囲は 1 ~ 15 です。デフォルトは 1 です。
--------------	---

コマンド デフォルト

value : 1

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 上のすべての着信 RIP ルートに 10 のオフセットを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip offset-list 10
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip rip metric-offset	着信 RIP ルートメトリックにオフセット値を追加します。

ip rip passive-interface

インターフェイス上での Routing Information Protocol (RIP) アップデートの送信を抑制するには、**ip rip passive-interface** コマンドを使用します。アップデートの停止を解除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip passive-interface

no ip rip passive-interface

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

インターフェイス上で RIP アップデートが送信されます。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

パッシブ インターフェイス上でマルチキャスト（またはブロードキャスト）アドレスへの RIP によるルーティング アップデートの送信が停止されている間も、RIP は引き続き、そのインターフェイス上のそのネイバーからルーティング アップデートを受信して処理します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、イーサネット 1/2 をパッシブ インターフェイスとして設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip passive-interface
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。

ip rip poison-reverse

Routing Information Protocol (RIP) ルータ アップデートのポイズン リバース処理をイネーブルにするには、**ip rip poison-reverse** コマンドを使用します。RIP アップデートのポイズン リバース処理をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip poison-reverse

no ip rip poison-reverse

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

スプリット ホライズンは常にイネーブルです。ポイズン リバース処理はディセーブルです。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

RIP ルータ アップデートのポイズン リバース処理をイネーブルにするには、**ip rip poison-reverse** コマンドを使用します。デフォルトでは、Cisco NX-OS は、RIP ルートを学習したインターフェイスからの RIP ルートのアドバタイズは行いません (スプリット ホライズン)。ポイズン リバースとスプリット ホライズンを両方とも設定した場合、Cisco NX-OS はルートを学習したインターフェイスを通じて、その学習ルートは到達不能であるとアドバタイズします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、RIP を実行しているインターフェイスのポイズン リバース処理をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip poison-reverse
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。

ip rip route-filter

インターフェイスの着信または発信 Routing Information Protocol (RIP) ルートをフィルタリングするには、**route-filter** コマンドを使用します。インターフェイスからフィルタリングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip rip route filter {prefix-list list-name | route-map map-name} {in | out}
```

```
no ip rip route filter {prefix-list list-name | route-map map-name} {in | out}
```

構文の説明

prefix-list <i>list-name</i>	RIP パケット フィルタリング用のプレフィックス リストを関連付けます。
route-map <i>map-name</i>	ルート マップを関連付けて RIP の再配布ポリシーを設定します。
in	着信ルートをフィルタリングします。
out	発信ルートをフィルタリングします。

コマンドデフォルト

ルート フィルタリングはディセーブルです。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスの着信ルートまたは発信ルートをフィルタリングするには、**ip rip route-filter** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、RIP インターフェイスのルートをフィルタリングするためにルート マップを使用する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip rip route-filter route-map InRipFilter in
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
prefix-list	プレフィックス リストを作成します。
route-map	ルート マップを作成します。

ip rip summary-address

Routing Information Protocol (RIP) のインターフェイスの下でサマリー集約アドレスを設定するには、**ip rip summary-address** コマンドを使用します。特定のアドレスまたはサブネットの集約をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip rip summary-address *ip-prefix/mask*

no ip rip summary-address *ip-prefix/mask*

構文の説明

ip-prefix/length 集約する IP プレフィックスおよびプレフィックス長

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

特定のインターフェイスのアドレスまたはサブネットを集約するには、**ip rip summary-address** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。



(注)

レイヤ 3 インターフェイスをイネーブルにするため、LAN Base Services ライセンスがスイッチにインストールされていることを確認します。

例

次に、イーサネット インターフェイス 1/2 からアドバタイズされるサマリー アドレス 192.0.2.0 を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip summary-address rip 192.0.2.0/24
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。

ip router rip

インターフェイス用の Routing Information Protocol (RIP) インスタンスを指定するには、**ip router rip** コマンドを使用します。デフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip router rip *instance-tag*

no ip router rip *instance-tag*

構文の説明	<i>instance-tag</i>	RIP インスタンスの名前。 <i>instance-tag</i> には最大 20 文字の英数字文字列を指定します。大文字と小文字は区別されます。
-------	---------------------	--

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	インターフェイス コンフィギュレーション モード
----------	--------------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドを使用する前に、スイッチで RIP をイネーブルにするようにしてください。 このコマンドには、LAN Base Services ライセンスが必要です。
------------	---

例	次に、インターフェイス用の RIP インスタンスを設定する例を示します。
---	--------------------------------------

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip router rip Enterprise
switch(config-if)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
	feature rip	スイッチで RIP をイネーブルにします。
	show ip rip	すべての RIP インスタンスの RIP 要約情報を表示します。